

1. 科目名 (単位数)	異文化理解特論 (2 単位)	3. 科目番号	EDMP5363
2. 授業担当教員	【池袋】坂井 二郎 【名古屋】内藤 伊都子		
4. 授業形態	講義、ディスカッション	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係	特になし。		
7. 講義概要	<p>人は、ある文化環境の中で社会生活を営んでいる。人の移動が容易になった現代においては、自分が所属している文化だけでなく、異なる文化と接触したり、時には2つ以上の文化環境にまたがって生活したり活動したりする場合もある。そして、その文化や社会環境は人間の行動や他者との関係性などに影響を及ぼしている。</p> <p>本講義では、まず、コミュニケーション学の視点からみた「文化」について概観し、つぎに、異文化理解のために重要となる基礎概念や影響要因などについて扱っていく。また、文化背景の異なる他者との具体的なコミュニケーション事象を通して、異文化の他者理解を図るとともに、自文化や自己理解についても考察していく。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 文化背景の異なる他者と積極的に交流したり主体的に活動したりする力に結び付けることができる。 2 文化的影響要因を用いて自己分析をし、自己理解や自文化理解を図ることができる。 3 異文化理解に影響する要因について、理由とともに説明することができる。 		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<p>各回の学習の課題、キーワードについて事前に調べたり考えをまとめたりしておくこと。 異文化研究や比較文化研究に関する指定した文献を講読し、講義内容を踏まえてレポートを作成する。 詳細は授業内で指示する。</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 資料は適宜授業で配付する。</p> <p>【参考書】 池田理知子・埜幸枝 編著『グローバル社会における異文化コミュニケーション』三修社、2019。 小島勝・白土悟・齋藤ひろみ 編『異文化間に学ぶ「ひと」の教育』明石書店、2016。 加賀美常美代・徳井厚子・松尾知明 編『文化接触における場としてのダイナミズム』明石書店、2016。 山本雅代・馬淵仁・塘利枝子 編『異文化間教育のとらえ直し』明石書店、2016。 佐藤郡衛・横田雅弘・坪井健 編『異文化間教育のフロンティア』明石書店、2016。 石井敏・久米昭元 編『異文化コミュニケーション事典』春風社、2013。 その他文献は授業内で適宜紹介する。</p>		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 文化背景の異なる他者と積極的に交流したり主体的に活動したりする力に結び付けることができたか。 2 扱った基礎概念を用いて自己分析をし、自己理解や自文化理解を図ることができたか。 3 異文化理解に影響する要因について、理由とともに説明することができたか。 <p>○評定の方法</p> <p>授業への取り組み度 30%</p> <p>授業時の課題提出 30%</p> <p>レポート 40%</p> <p>これらを総合的に評価する。</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>異なる文化、多様な文化に積極的な興味を持っていることが望ましい。</p> <p>自身の身近な生活の中にある異文化を意識して観察し、関連付けながら受講することを勧める。</p> <p>講義内容を積極的に聴き、必要に応じて自身が振り返る際に理解できる言葉・表現でメモすることを勧める。</p> <p>自身の意見や考えについて活発に発信していくこと。</p>		
13. オフィスアワー	初回の授業時に通知する。		
14. 学習の展開及び内容	【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】		
1. テーマ	異文化接触の現状		
	<p>【学習の目標】自身の異文化体験から文化を客観的に認識し、身近に存在している異文化に気づけるようになる。</p> <p>【学習の内容】文化が異なるとはどういうことか、自身の異文化体験から文化について考察していく。</p> <p>【キーワード】異文化接触、食文化、伝統文化、大衆文化 など。</p> <p>【学習の課題】上記のキーワードについて事前に調べたり、自分なりの考えをまとめたりしておくこと。</p> <p>【参考文献】上記 10 で挙げた参考書、配付資料。その他文献は授業内で紹介する。</p> <p>【学習する上での留意点】自身や周囲の人々が置かれた状況や体験したことなどと関連付けながら受講することを勧める。</p>		
2. テーマ	文化の学習		
	<p>【学習の目標】自身がどのように社会環境の中で文化を獲得してきたかについて認識を新たにする。</p> <p>【学習の内容】文化を扱う学問領域のなかでコミュニケーション学の視点から文化とはなにかについて概観していく。</p> <p>【キーワード】文化、エティック・イーミック、普遍性と多様性 など。</p> <p>【学習の課題】上記のキーワードについて事前に調べたり、自分なりの考えをまとめたりしておくこと。</p> <p>【参考文献】上記 10 で挙げた参考書、配付資料。その他文献は講義内で紹介する。</p> <p>【学習する上での留意点】自身や周囲の人々が置かれた状況や体験したことなどと関連付けながら受講することを勧める。</p>		
3. テーマ	文化とコミュニケーション		
	<p>【学習の目標】コミュニケーション事象に含まれる情報利用の文化的差異について理解できるようになる。</p> <p>【学習の内容】文化コンテキストとコミュニケーション行動から文化背景の異なる他者について考察していく。</p>		

	<p>【キーワード】 コミュニケーション・モデル、メッセージ、チャンネル、エンコーディング、デコーディング など。</p> <p>【学習の課題】 上記のキーワードについて事前に調べたり、自分なりの考えをまとめたりしておくこと。</p> <p>【参考文献】 上記10で挙げた参考書、配付資料。その他文献は講義内で紹介する。</p> <p>【学習する上での留意点】 自身や周囲の人々が置かれた状況や体験したことなどと関連付けながら受講することを勧める。</p>
4. テーマ	文化的自己観
	<p>【学習の目標】 自身の文化的自己観を分析できるようにする。</p> <p>【学習の内容】 文化によって作られた人間観・心のモデルについて概観し、異文化の対人関係について考察する。</p> <p>【キーワード】 相互独立的自己観、相互協調的自己観、自己概念、会話制約理論 など。</p> <p>【学習の課題】 上記のキーワードについて事前に調べたり、自分なりの考えをまとめたりしておくこと。</p> <p>【参考文献】 上記10で挙げた参考書、配付資料。その他文献は講義内で紹介する。</p> <p>【学習する上での留意点】 自身や周囲の人々が置かれた状況や体験したことなどと関連付けながら受講することを勧める。</p>
5. テーマ	文化的価値
	<p>【学習の目標】 自身の常識や価値観について多面的な考え方ができるようになる。</p> <p>【学習の内容】 価値観とはなにか、価値観と行動はどのように結びついているかなどについて扱っていく。</p> <p>【キーワード】 価値観、個人主義・集団主義、権力格差、男性性・女性性 など。</p> <p>【学習の課題】 上記のキーワードについて事前に調べたり、自分なりの考えをまとめたりしておくこと。</p> <p>【参考文献】 上記10で挙げた参考書、配付資料。その他文献は講義内で紹介する。</p> <p>【学習する上での留意点】 自身や周囲の人々が置かれた状況や体験したことなどと関連付けながら受講することを勧める。</p>
6. テーマ	文化と言語
	<p>【学習の目標】 言語そのものではなく、言語コミュニケーション行動に表出される文化的差異について気づくことができる。</p> <p>【学習の内容】 言語の共通性と多様性、文化と言語の関係、言語と思考の関係などについて扱っていく。</p> <p>【キーワード】 言語コミュニケーション、言語相対性仮説、思考、会話スタイル など。</p> <p>【学習の課題】 上記のキーワードについて事前に調べたり、自分なりの考えをまとめたりしておくこと。</p> <p>【参考文献】 上記10で挙げた参考書、配付資料。その他文献は講義内で紹介する。</p> <p>【学習する上での留意点】 自身や周囲の人々が置かれた状況や体験したことなどと関連付けながら受講することを勧める。</p>
7. テーマ	文化と非言語
	<p>【学習の目標】 非言語コミュニケーション行動に表出される文化的差異について気づくことができる。</p> <p>【学習の内容】 非言語行動自体にも文化的特徴があることについて事例を取り上げながら扱っていく。</p> <p>【キーワード】 非言語コミュニケーション、空間行動、身体接触、身体動作、準言語、被服行動 など。</p> <p>【学習の課題】 上記のキーワードについて事前に調べたり、自分なりの考えをまとめたりしておくこと。</p> <p>【参考文献】 上記10で挙げた参考書、配付資料。その他文献は講義内で紹介する。</p> <p>【学習する上での留意点】 自身や周囲の人々が置かれた状況や体験したことなどと関連付けながら受講することを勧める。</p>
8. テーマ	異文化環境と対人関係
	<p>【学習の目標】 文化の内と外からの視点を通して、比較することの意味について理解を深める。</p> <p>【学習の内容】 自文化と他文化を比較するとはどういうことか、対人関係を中心に考察していく。</p> <p>【キーワード】 クロス・カルチュラルとインター・カルチュラル、面子、対人的ネットワーク、ホスト・ゲスト など。</p> <p>【学習の課題】 上記のキーワードについて事前に調べたり、自分なりの考えをまとめたりしておくこと。</p> <p>【参考文献】 上記10で挙げた参考書、配付資料。その他文献は講義内で紹介する。</p> <p>【学習する上での留意点】 自身や周囲の人々が置かれた状況や体験したことなどと関連付けながら受講することを勧める。</p>
9. テーマ	不確実性
	<p>【学習の目標】 自身の不確実性回避傾向について分析できるようにする。</p> <p>【学習の内容】 不確実性という概念を用いたコミュニケーション理論について解説していく。</p> <p>【キーワード】 不確実性、不確実性減少理論、不安・不確実性調整理論、不確実性回避、ストレンジャー、マインドフル など。</p> <p>【学習の課題】 上記のキーワードについて事前に調べたり、自分なりの考えをまとめたりしておくこと。</p> <p>【参考文献】 上記10で挙げた参考書、配付資料。その他文献は講義内で紹介する。</p> <p>【学習する上での留意点】 自身や周囲の人々が置かれた状況や体験したことなどと関連付けながら受講することを勧める。</p>
10. テーマ	マルチカルチュラリズム
	<p>【学習の目標】 自身の文化的アイデンティティについて分析できるようにする。</p> <p>【学習の内容】 2つ以上の文化の影響を受けている人々のこころの諸相等、異文化理解における心理的要因について扱っていく。</p> <p>【キーワード】 文化的アイデンティティ、バイリンガリズム、自己定義と他者定義 など。</p> <p>【学習の課題】 上記のキーワードについて事前に調べたり、自分なりの考えをまとめたりしておくこと。</p> <p>【参考文献】 上記10で挙げた参考書、配付資料。その他文献は講義内で紹介する。</p> <p>【学習する上での留意点】 自身や周囲の人々が置かれた状況や体験したことなどと関連付けながら受講することを勧める。</p>
11. テーマ	異文化適応とソーシャルサポート
	<p>【学習の目標】 異文化環境下での不適応について理解を深め、自文化でのサポートに役立てるようにする。</p> <p>【学習の内容】 異文化環境下での適応や不適応の状況・状態について概観し、適応促進について考察していく。</p> <p>【キーワード】 適応、不適応、期待、ソーシャルサポート、短期適応・長期適応、再適応 など。</p> <p>【学習の課題】 上記のキーワードについて事前に調べたり、自分なりの考えをまとめたりしておくこと。</p> <p>【参考文献】 上記10で挙げた参考書、配付資料。その他文献は講義内で紹介する。</p> <p>【学習する上での留意点】 自身や周囲の人々が置かれた状況や体験したことなどと関連付けながら受講することを勧める。</p>
12. テーマ	文化と組織
	<p>【学習の目標】 組織レベルにおける文化的影響について探求する。</p>

	<p>【学習の内容】組織内における文化の影響と文化背景が異なる組織同士の相互作用の現状などについて扱っていく。</p> <p>【キーワード】異文化経営、意思決定、組織コミュニケーション、異文化交渉、多国籍チーム など。</p> <p>【学習の課題】上記のキーワードについて事前に調べたり、自分なりの考えをまとめたりしておくこと。</p> <p>【参考文献】上記 10 で挙げた参考書、配付資料。その他文献は講義内で紹介する。</p> <p>【学習する上での留意点】自身や周囲の人々が置かれた状況や体験したことなどと関連付けながら受講することを勧める。</p>
13. テーマ	文化とメディア
	<p>【学習の目標】国際社会におけるメディアの文化的影響について探究する。</p> <p>【学習の内容】国境を超えるメディアの文化的影響や情報の扱い方、マス・コミュニケーションの現状などについて扱っていく。</p> <p>【キーワード】メディア、情報、マス・コミュニケーション、知的所有権、ステレオタイプ など。</p> <p>【学習の課題】上記のキーワードについて事前に調べたり、自分なりの考えをまとめたりしておくこと。</p> <p>【参考文献】上記 10 で挙げた参考書、配付資料。その他文献は講義内で紹介する。</p> <p>【学習する上での留意点】自身や周囲の人々が置かれた状況や体験したことなどと関連付けながら受講することを勧める。</p>
14. テーマ	異文化理解教育
	<p>【学習の目標】異文化理解を教育していくことの意味を探究する。</p> <p>【学習の内容】既習内容を振り返り、自己理解を含めた自文化理解や他者理解を含めた異文化理解について再考し、異文化理解を教育していくことの意味を考察していく。</p> <p>【キーワード】各テーマで挙げたキーワード全体。</p> <p>【学習の課題】上記のキーワードについて事前に調べたり、自分なりの考えをまとめたりしておくこと。</p> <p>【参考文献】上記 10 で挙げた参考書、配付資料。その他文献は講義内で紹介する。</p> <p>【学習する上での留意点】自身や周囲の人々が置かれた状況や体験したことなどと関連付けながら受講することを勧める。</p>
15. テーマ	総括
	<p>【学習の目標】ノートや資料を整理してレポートが作成できるようにする。</p> <p>【学習の内容】全体的な復習をし、レポート作成に向けてまとめていく。</p> <p>【キーワード】各テーマで挙げたキーワード全体。</p> <p>【学習の課題】キーワードを手掛かりに、既習内容について不明な点がないか全体的に確認しておくこと。</p> <p>【参考文献】上記 10 で挙げた参考書、配付資料。その他文献は講義内で紹介する。</p> <p>【学習する上での留意点】これまでの講義内容を踏まえてレポートを作成できるようにノートや資料を整理していく。</p>